

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1470900950
法人名	ランディング株式会社
事業所名	ハンズ新横浜
訪問調査日	平成 21 年 10 月 28 日
評価確定日	平成 21 年 12 月 9 日
評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1470900950
法人名	ランディング株式会社
事業所名	ハンズ新横浜
所在地	神奈川県横浜市港北区篠原町1451 (電話) 045-439-6266

評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2		
訪問調査日	平成21年10月28日	評価確定日	平成21年12月9日

【情報提供票より】(平成21年9月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 12月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 2人, 非常勤 7人, 常勤換算 5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4 階建ての	2 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(400,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,300 円	

(4) 利用者の概要(平成21年9月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	5 名	女性	4 名	
要介護1	1 名	要介護2	0 名			
要介護3	3 名	要介護4	3 名			
要介護5	2 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	82 歳	最低	72 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	なみき内科クリニック、篠原Kクリニック
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<ul style="list-style-type: none"> ◆JR線新横浜駅から徒歩3分の住宅地に位置している。窓の開閉口が広く、採光がよく、季節の移り変わりが見られる。 ◆家庭的環境の中で、和やかな雰囲気づくりに配慮し、自立支援に向けたサービスの提供を心がけている。 ◆張り合いのある生活となるよう、利用者個々の出来ることや過去の経験を活かした役割を担ってもらい、また、レクリエーション、誕生日会や七夕祭り・敬老会・クリスマス会の行事を実施している。 ◆同一法人の1階にあるデイサービスとは、囲碁・将棋・カラオケに利用者が参加したり、合同で夏祭りや避難訓練を実施するなど、連携を図っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回が初回の外部評価の受審である。評価結果を参考にして、サービスの質の向上に活かす意向である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は法人代表者と計画作成担当で作成した。職員には外部評価を受審することを説明した。評価結果は、利用者・職員に説明し、家族には郵送する予定である。運営推進会議にも報告し、サービスの質の向上に役立てる意向である。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>利用者・家族、協力医療機関の篠原Kクリニック院長、法人代表者・職員が参加して、平成21年10月26日に初回を開催した。自治会長・民生委員・地域包括支援センターは都合により欠席であった。会議では、利用者・家族の要望等を聞いた。今後は、2カ月ごとに開催し、サービスの質の向上に役立てる意向である。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>法人内外の相談・苦情の窓口を重要事項説明書に明記し、入居時に説明している。これまでに苦情になるような事項は生じていないが、苦情等があった場合は法人の代表者に連絡することになっている。利用者の暮らしぶりや健康状態は、家族の来訪時に説明するとともに、月1回の請求書と立替え金領収書の送付時に、日常の様子や行事の写真を同封し報告している。運営推進会議でも家族の要望等を聞いている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩の折には近隣の住民と挨拶をしたり、道路の清掃を職員が行っている。また、隣家の竹林では竹の子・柿・ふきの採取をさせてもらっている。自治会など地域との交流が少なく、課題としている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の倫理規定を事業所の運営の柱として、家庭的環境の中で和やかな雰囲気づくりに配慮し、自立支援に向けたサービスの提供を心がけている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の倫理規定について、事務室に掲示するとともに、職員の採用時に法人代表者が説明し、業務連絡会(職員会議)でも議題として取り上げ、日々のサービス提供に活かせるように意識づけをしている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩の折には近隣の住民と挨拶をしたり、道路の清掃を職員が行っている。また、隣家の竹林では竹の子・柿・ふきの採取をさせてもらっている。自治会など地域との交流が少なく、課題としている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初回の外部評価の受審である。外部評価を受審することを職員に説明し、法人代表者と計画作成担当で自己評価票の作成を行った。評価結果は、利用者・職員に説明し、家族には郵送する予定である。また、運営推進会議に報告し、サービスの質の向上に役立てる意向である。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成21年10月26日に初回を開催し、利用者・家族、協力医療機関の篠原Kクリニック院長、法人代表者・職員が参加し、自治会長・民生委員・地域包括支援センターは都合により欠席であった。会議では、利用者・家族の要望等を聞いた。今後は、2カ月ごとに開催し、サービスの質の向上に役立てる意向である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の介護保険担当者や生活保護担当者とは、各種申請手続きや認定調査、利用者の対応、運営上の課題などを相談している。また、区から身体拘束防止のテキストを受領したり、研修・インフルエンザの通知がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態は、家族の来訪時に説明するとともに、月1回の請求書と立替え金領収書を家族に郵送する際に、日常の様子や行事の写真を同封し報告している。突発的な病気・ケガは、電話で知らせている。ホーム便りは1年前までは同一法人のデイサービスと合同で発行していたが、現在は休刊している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人内外の相談・苦情の窓口を重要事項説明書に明記し、入居時に説明している。これまでに苦情になるような事項は生じていないが、苦情等があった場合は法人代表者に連絡することになっている。初会合の運営推進会議でも家族の要望等を聞いている。今後は民生委員等に呼びかけて、事業所の外部者に意見等が言いやすい体制づくりを整えたいと考えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまでに、管理者、計画作成担当者の退職により、各3回交代している。退職を希望する場合は早期の申出を徹底して引継ぎを円滑にし、利用者の不安等の解消に役立てたいとしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の採用時には、法人代表者が倫理規定などの説明や実地訓練を行い、職員の育成に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの管理者等と相互に訪問し見学するなど、交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<input type="checkbox"/> 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、事業所を見学してもらい、事業所での暮らしぶりや設備などを説明している。居室に空きがある場合は、1週間程度の体験入居を勧め、事業所の雰囲気を体験してもらい、徐々に馴染めるようになってから入居をしてもらっている。本人が落ち着くまでは家族に訪問の協力をお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<input type="checkbox"/> 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に、洗濯物たみや宅配便の荷物の受け取りなどを担ってもらっている。日常的に、利用者と職員がお互いに悩みを聞いたり、聞いてもらうなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<input type="checkbox"/> 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者・家族の思いや意向は、入居時のアセスメントで把握し、個々の生活歴、生い立ち、趣味、生活動作などを記録している。日々の申し送りでも変化を確認している。意思表示が困難な利用者には、声かけや日常動作から確認したり、家族から聞き取っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<input type="checkbox"/> チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書の作成には、利用者・家族がカンファレンスに同席し、その都度意向を聞いている。介護計画書は利用者の視点に立って作成し、家族に説明して同意を得ている。		
16	37	<input type="checkbox"/> 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	心身の状態が安定している利用者については、医師の意見を取り入れ、3～6カ月ごとに見直しを行っている。状態の変化があった場合は、随時カンファレンスを開催して介護計画書の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助は、緊急の場合と独居の利用者には職員が付き添っている。入院した場合は、職員が容態の情報収集を行っている。理容・美容師が2カ月ごとに訪れている。また、同一法人の1階にあるデイサービスとの交流があり、囲碁・将棋・カラオケに、グループホームの利用者が参加している。1階のデイサービスからグループホームに移行する利用者もいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医に通院している利用者、事業所と契約している協力医療機関を利用している利用者がある。通院介助は原則家族だが、緊急の場合と独居の利用者には職員が付き添っている。協力医療機関の場合は、内科医の訪問診療が月1回ある。歯科医療機関はデイサービスと同じ訪問歯科を利用している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応について入居時に説明しているが、明文化はしていない。今後は、利用者が重度化した場合や終末期のケアについて、家族の要望に応じて対応していきたいと考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人の倫理規定にプライバシーの保護を掲げ、職員の採用時に法人代表者が説明を行っている。個人情報の取り扱いについては、利用者・家族および職員に、それぞれ契約時・採用時に説明し、同意書・誓約書を取り交わしている。重要書類は事務室に保管し施錠している。訪問調査日の職員の態度、言葉遣い、トイレ誘導は穏やかであった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活ペースを尊重し、生活パターンに沿った日々の過ごし方を支援するように心がけている。起床や食事時間も自由であり、訪問調査日の午前10時に朝食を摂っている利用者がいた。また、囲碁・将棋のグループや歌唱の好きなグループがあり、利用者の好みに合わせて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者の希望を聞いて管理者が2～3日分を作り、食材を購入している。食材は旬のものを取り入れ、味付け・彩り・盛り付けを工夫している。冬は暖かいおでん、夏は冷やし中華が利用者に好評である。食後の片付けを利用者に手伝ってもらっている。訪問調査時の昼食では、利用者と職員が同席して、一緒に食事をとり、さりげない介助が行われていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回、午前と午後に分けて入浴している。業務管理日誌にバイタルチェックと入浴記録をとっている。柚子湯や入浴剤を入れて気分転換を図っている。入浴を好まない人には、声かけで促している。夏と冬で対応を変えており、シャワー浴や足浴の場合もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の張り合いある生活を支援するため、利用者個々の出来ることを生かしての洗濯物たたみ・新聞折り・小物運びや、過去の経験を活かし車椅子の修理などを担ってもらっている。また、レクリエーションとして、歌・塗り絵・折り紙・カルタ・お手玉・パズルなど、行事として七夕祭り・夏祭り・クリスマス会・誕生日会を実施している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	歩行が自立している利用者は、近くの新横浜駅周辺に外出している。車椅子使用の利用者は、職員が階段の上り下りを介助して、外出している。建物にエレベーターがなく、ボランティアによる外出支援を検討している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せず、見守りで対応している。安全のためマグネット式のセンサーと鈴のチャイムを設置している。居室に鍵はなく、利用者は自由に出入りしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自主消火避難訓練を、同一法人のデイサービスと合同で毎年2回実施している。夜間の災害発生時の場合は、法人代表者と職員が駆けつけることになっている。平成21年11月に消防署の立会いで、同一法人のデイサービスと合同で、地域住民にも要請して、昼夜想定合同消火避難訓練を実施する予定である。災害時の非常用食料・飲料水の備蓄はまだしていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの摂食量・水分摂取量を個別に記録している。栄養士等による献立の栄養バランスについての確認はまだ受けていない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の家具・照明は一般家庭と同じものを使用し、窓の開口部が広く採光がよく明るい。居間には利用者一人ひとりの誕生日と干支の絵・飾り棚・行事写真・絵画・書物などが飾られている。車椅子での移動も踏まえて、整理整頓されている。トイレは2箇所あり、1箇所は車椅子対応で広い。空気清浄機が置かれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みの整理だんす・化粧台・人形・絵画・写真・仏壇などが持ち込まれ、居心地よく過ごせるようにしている。所持品の整理は職員が支援している。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ハンズ新横浜
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市港北区篠原町1451 ワイアールビル2階
記入者名 (管理者)	市川洋子
記入日	平成 21年 9月 10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念がある。	○	催しの際、近隣の高齢者に参加を呼びかけ、楽しいひと時を過ごしてもらいたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員教育の為、こまめに会議を開いている。	○	理念を身近に感じるにより一人一人が身につくようにしていく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	2回であるため、地域の中で暮らすという実感が薄い。(家族がいない:2人。配偶者が入院している:2人。)	○	隣家は昼間留守の2件で、他はアパートのみ。昔の家なみではない。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	挨拶を交わすことにより、日常のお付き合いが出来るようにしていく。 2回であるため、機会はあまりない。	○	ホームに気軽に立ち寄っていただけるような働きかけをしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	両隣とは、柿、筍、フキの採り入れをさせてもらっている。	○	町内会の情報を知ることにより、行事等に参加するように勤める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	踊りの会には、町内に貼紙し、参加を呼びかけた。	○	事業所の関係サービスも含め、地域の人の福祉サービスに努めたい。 困っている人の掘り起こし。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をすることにより今まで出来ていなかったことが分かりスタッフ間で話し合い、取り組んでいく努力をするよう話し合った。	○	自己評価をすることにより、足りない部分や対応の仕方を工夫し、評価を生かすように取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	していない。	○	10月1日初回会議開催予定。 他の人の意見を聞き、より良いサービスを実現したい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者と密に連絡することにより、利用者の変化に応じた対応をお願いしている。	○	市町村のサービスを利用したり、相談や研修に参加することにより関係を築いていき、サービスの向上に取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度についての概要は理解しているが、より深い理解がされていなかった。	○	研修や説明会に参加することにより知識を身につけ利用者にかかしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時解約時には利用者・家族に十分な説明を行っている。	○ 利用者や家族に十分な説明を行い、理解していただけるように努力していく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談室を開設している。	○ 苦情相談室の広報活動をしていく。(ハンズ新横浜内に貼紙をしている。)
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が訪問した時は今までの経過報告や行事の報告などをおこなっているが定期的な報告はしていない。新聞を発行した。	○ 利用者のホームでの暮らし振りや行事に参加している姿を写真に撮り、家族に安心感を与えるようにする。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を計画したが、結局参加者2名で成立しなかった。	○ 入居者の変更もあるので、再び家族会を計画したい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議を設け、意見を聞いている。	○ 意見が少なく本音が分かりがたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状態により必要な人員配置を行っているが、管理者や事業主に負担が重くなっている。	○ 利用者の状態により職員配置を手厚くするなど対応している。入居者の認知症化が進み、対応に苦慮している。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が代わる場合の対応を一人一人考慮する。	○ 早くから退職予定者の情報を得る。不満等の実事情を知りたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの資格取得を後援している。	○ 管理者とスタッフの会話の機会を多くする。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会を多く設けたいと思い、親しいケアマネ等に施設を見てもらっている。	○ 深い交流の場を定期的に設けたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会を時を見て行う。	○ 相談事や悩み事を聞くべく、声かけをする。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	本人の向上心は、時として上向き、時としてやる気を感じさせない行動がある。本心を図りかねる。	○ ベテラン介護者を入れる配慮をしている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の願いや不安な思いを受け止め安心して入居していただけるように配慮している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が困っていること・不安な思いを受けとめるように何度も話をする機会を設けている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態を見極め、他のサービス利用も含めグループホームの支援内容も良く説明をする。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や体験入居するなど余裕を持って安心して入居できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人のバックグラウンドを理解し、本人の思いをくみ取った支援をしている。	○	共に1日を過ごしている仲間として、話し合ったり、昔話を聞いたりする中で本人から学んでいくこともあることを話していく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	状態の変化を知らせ家族の意向・意見をうかがいながら共に支えている関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	それまでの本人と家族との関係を理解し、支援の思いを共感することによりより良い関係を築いている。	○	家族を待ちわびている状態や家族が来所された後穏やかな表情になっている状態を話し、出来るだけ会う機会を作るように働きかける。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の訪問を歓迎し、ゆったり過ごしていかれるように配慮している。	○	友人の来所を本人が楽しみにしている事を話し、再度の訪問をお願いしていく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	距離を置きながらも、支え合っている関係を作れるように支援・見守りをする。	○	毎日顔を合わせているのでぶつかることも多いが、場所を変えたり話し相手になったり、間に入ったりして関係性が悪くならないように配慮していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要時、代表がハガキを書き、連絡を取り合っている。	○	発行新聞を送り届ける。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの安らぐ場所を確保し・ホームでゆったり過ごせる環境を作る。	○	一人一人の思いや・希望を把握することにより、少しでも思いがかなうように勤めるようにしていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴を把握し、理解するように勤めている。	○	これまでの暮らし方や思い出話を聞くことにより、一人一人の生活歴を把握していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の生活のパターンを崩さないように、見守る。	○	一人一人の生活のパターンを把握していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	作成している。	○	スタッフ間の話し合いの機会を設けより良いケアプランを作成していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画に無理が生じた場合、体調の変化があった場合は速やかにケアプランの変更をするように話し合う。	○	変化に応じ、速やかに対応するようにスタッフ間の話し合いを行っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録することにより変化に気づき早目に対応することができる。	○	ケア記録を詳細に記入するように努める。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	していない。	○	今後どのようにすればできるのか考えたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察・消防署については、支援の協力をお願いしている。	○	地域の関係機関との連携に努めるようにしていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	なし。	○	本人の意向は、確認しにくいと考えたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	なし。	○	必要性がなかったが、長期的な考えを探りたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診時には一人ひとりの状態をお話し今後の接し方等意見を伺って対応しています。また、変化のあった時やわからない時は電話にて対応していただいています。又専門医と協力関係を結び月1回の往診をお願いしています。	○	引き続き、協力医療機関より適切な医療を受けられるように支援していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	泌尿器科・皮膚科・内科医の協力関係を築いている。	○	認知症専門医との関係を築いて行くよう努めていく。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	デイの看護職員に必要時相談している。	○	医療機関及びデイの看護職員と相談、実践していく。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院に出向き病状を把握している。	○	今まで同様、密な連絡をシェアしたい。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化が進みグループホームの運営が上手くいかない。家族がいない為、スタッフが話し合い方針を共有する。	○	次の施設への移行がスムーズに行われるよう、働きかけをしたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した利用者の体調変化のつど、かかりつけ医と電話連絡・往診で対応している。	○	利用者をより理解していただけるように、体調を詳細に報告するように努めている。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報交換をしていた。	○	重度化した利用者の住み替え等十分配慮したい。他の利用者の為にも。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	聞こえずらい人が多く声が大きくなってしまいが、動作でも理解できるように誘導したり声掛けをしたりしている。	○ プライバシーを損ねないように配慮している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	まわりに配慮しながらも、本人の希望に添った援助が出来るように努めている。	○ 利用者を観察したり、話を聞くことにより本人の希望を見出すように努めていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のおおよそのスケジュールは決まっているが、一人ひとりの様子を見ながら散歩に誘ったり、ゲームを一緒にすることにより生活に変化をつけている。	○ 2時間～3時間の短時間のレクリエーションを計画することから始めて生活に変化をもたらすようにしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の好みを事前に把握し、洋服などはその都度選べるように努めている。	○ 好みのおしゃれが出来るように配慮していく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立については、リクエストされた食べ物を献立に盛り込み、食事の時間が楽しくなるように工夫している。	○ 利用者の声を大切に受け止め献立に反映していく努力をしていく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつや献立の中に希望の品を入れることにより楽しみを作るようにしている。	○ 生活週間病の利用者が殆どの中で、一人一人の嗜好品を楽しめるように取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの表情や態度を見守りトイレ誘導を行っている。	○	トイレ誘導のタイミングを見極められるようにスタッフ間で話し合い適切に対応できるようにしていく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	限られた曜日・時間の中で一人一人順番に入浴している。又、個人対応でシャワー浴をしている。	○	ひとりひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように支援していくように努める。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その日の状態を見ながら、ベッドでのお昼寝・リクライニングソファでの休息ができるように支援している。	○	一人一人の状態を見ながら、場所を変えたり、ベッドに移動したりしていく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームでの簡単な仕事(洗濯物整理。新聞折り・荷物運び)等を手伝っていただいている。	○	状態が悪化していく利用者が増えているため、役割・楽しみ事が減ってきているのでアイデアを出し合って気晴らしの支援を行っていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所有している人がいない。	○	家族と話し合い、お金を使う喜びを思い出していただけるようにしていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	スタッフの人数・建物の関係で外に行くことが困難な状態である。	○	スタッフを手厚く配置し、又はボランティアの参加を呼びかけ外出の機会を設けるようにしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	スタッフの人数・建物の関係で外に行くことが困難な状態である。	○	スタッフを手厚く配置し、外出の機会を設けるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話利用の支援をおこなっている。 クリスマスカード、年賀状を出している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族・友人の訪問には、落ち着いて話ができるような場をつくり、居心地良く過ごせるように支援している。	○	家族に訪問の依頼を行っていききたい
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 やむを得ない場合があった。	○	マニュアル等の書類を整備し、スタッフに周知させる。 身体拘束をしないケアに取り組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・入居者の協力も得て、全体を見守るようにしている。 ・入口にチャイムを取り付け鍵はかけないケアに取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホールには必ず職員が一人いることを心がけている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物は数量を把握している。置き場所に気を配っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒しやすい方は特にスタッフ全員で、気を配っている。	○	スタッフ全員が事故防止の知識を学ぶ機会を設けたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当・初期対応の訓練は行っていない	○	応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っていききたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	実地訓練に取り組んでいる。	○	スタッフ間で防災対策の話し合いや研修の機会を設けていききたい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	現在の状態を家族に伝え、起こりうるできごとを話し合っている。	○	家族へのリスクの説明を行っていく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの状態を見守る中で変化を見つけ、早急に対応するようにしている。	○	日誌の引継事項に書き注意を促す。 体温等バイタルチェックを頻回してしていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書・服薬料は全員が分かるような場所に置き、随時確認ができるようにしている。	○	スタッフ全員が服薬内容を把握できるように薬の説明書は見やすい場所に設置して置くようにしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘にならないように、食べ物に工夫をし、医師と相談しながら便秘薬の処方を試みている。	○	便秘になりやすい人を把握し常に記録を見ながら医師と相談して服薬したり、食べ物の工夫をするようにしている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後うがいをしたり、水分を飲むように支援をしている。	○	今後は口腔ケアの受診をお願いするようしていきたい。 歯科衛生士が必要時診る。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分摂取量を確保している。栄養バランス・量についても配慮している。	○	一人一人の状態に合わせ水分補給の支援をしていく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	こまめに石鹸での手洗いを心がける。外からきた時は、うがい・手洗いをする。	○	インフルエンザ対策等職員・利用者で繰り返し話合っしていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の衛生管理・食材はこまめに買い足すなどなるべく保存した食べ物は食べないようにしている。	○	賞味期限・消費期限の管理・冷蔵庫の管理。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	なし。	○	工夫をしたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	置物や棚の配置に気を使い、ゆったりとした空間を作るように工夫している。	○	再工夫をしたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座り心地の良いソファーをおき、外を眺めながら過ごすことができるように配慮している。仲の良い人がくつろげる場所を作っている。	○	利用者の希望を考えたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、馴染みの品物を置くようにし、思い出の品物に囲まれて過ごすことができるように配慮している。	○	居室に持ち込み分が多い人がいる。整理を心がけたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気や室温について、利用者の状態を見ながら又意見を聞きながら調節している。	○	居室の構造から、難しい調節もあるが、工夫している、したい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが好みの空間ができるように配慮したり、場所を変えて心地よい居場所を探すようにしている。	○	入所時は歩行可能であったが、重度化し、2人しか事由にあるけなくなった。2階であるためどうにかしたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の得意分野を活かして、居室作りをしている。	○	好みのレイアウトを考えたい。 車椅子利用者には難がある。改造を考える。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	東側ベランダに植物を置いている。 景色がよくスタッフの息抜き場所でもある。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

和やかな雰囲気作り（ビデオを見ながら一緒に唄を歌ったり、聞いたりする）し、気分転換を図る。